



【モンクロベニカミキリ】その名の通り、べに色の体に、黒い紋があります。

41年ぶりの大発見 モンクロベニカミキリ

モンクロベニカミキリ。5月8日に島根県内では実に41年ぶりに発見された、カミキリムシの一種です。上米島の中山間地域研究センター構内で、県立農林大学校林業課の生徒が発見。全国的にも発見例が少ないため、飯南町の自然の豊かな生物多様性を示す貴重な発見として、テレビ・新聞でも大きく取り上げられました。

さて、飯南町にはどれだけの種類の昆虫が住んでいるのでしょうか。



モンクロベニカミキリ発見者の農林大学校の生徒2人に感謝状を贈呈

うにブナ林などの自然林がまとまった面積で残されている場所はあまりありません。飯南町の森は昆虫たちに適した環境だと言えると思います」と話します。

里山を守る＝昆虫のすみかを守る

虫がすむところというと、『原生林』のイメージがあるかもしれませんが、それが全てではないようです。

福井さんは、「人が管理などをしていて、いろんな環境が維持されている、いわゆる『里山』と呼ばれる、そういうところだと昆虫や植物は生き残りやすいです。管理をすることで、多様性が生まれます」と話します。例えば、ギフチョウはアオイの葉を食べます。アオイは、間伐などの手入れがされた森の日光の当たる明るい場所に生えます。

モンクロベニカミキリは、広葉樹の木の切り株から生える新しい芽に、よく集まってきます。いずれも人の手が増えられた場所です。

原生林というアマゾンなどの熱帯雨林をイメージされたいと思います。そういった場所

では、大きくなりすぎたり古くなった木が自然に倒れ、周りの木も一緒になぎ倒れます。そうすると、その区域に光が当たるようになり、倒れたことにより、新たな環境が生まれ、違う虫や植物が住み着き、生物多様性を生み出します。人工林で言うと、間伐にあたりません。

里山を管理し、守る。このことが昆虫を守る、生物多様性の維持には必要不可欠です。

自分で「みて」「さわって」

「いわゆる普通種と言われる、どこにでもいるような虫にも、本当は関心を持っていただけたいいなと思います」と福井さん。身近な虫でも知られていないことがたくさんあります。

例えば、ホタル。60種類ほどいますが、そのうち水の中で暮らしているのは数種類。水の生き物というイメージがあると思いますが、ゲンジボタルとかヘイケボタルなどの水生のホタルはごくごく少数派です。意外とご存知ではない方も多いのではないのでしょうか。

福井さんは「昆虫は、動物と違い、自分で捕まえて触ることができる生き物です。小さい子

町内にいる個性的な虫たち
「飯南町で調査をすれば4、5千種類くらいは見つかるのではないのでしょうか？」と話すのは、島根県中山間地域研究センター 森林保護育成科科长の福井修二さんです。



中山間地域研究センター 森林保護育成科 科長 福井修二さん

赤名湿地に住む昆虫。ハンノキの葉っぱを食べるハンノキカミキリや世界最小と言われるトンボの一種のハッチョウトンボ、水生植物の根を食べるネクイハムシなど。大万木山にはミドリシジミ、女亀山や琴引山の山頂近くには、春先にギフチョウが舞います。いずれも、島根県に生息している、絶滅の恐れのある昆虫としてレッドデータブックに掲載されています。

福井さんは「この本に掲載されている動植物で、飯南町で採集されるものは多いです。東西に長い島根県ですが、本町のように標高が高く、大万木山のよ



AR 動画

ハッチョウトンボ



夏の野山へ 飛び出そう!

「ミーンミーン」「ジ～」と本格的な夏を前に、セミたちが元気に鳴いています。夏の昆虫と言えば、セミにクワガタ、カブトムシ、バッタにホタルなど、実に多くの昆虫がいます。身近にさわれる昆虫。夏休みも始まりました。野山へ昆虫採集に飛び出してみませんか?家の近くの野山にも新たな発見が隠れているかもしれません。

夏休みに親子で 三瓶自然館サヒメル 「SHIN昆虫展」

地球上で最も繁栄している昆虫。子ども達にも大人気のカブトムシやクワガタムシなどおなじみのものから、ちょっと気になるあの昆虫まで、新たな切り口で迫る昆虫展です。

期間 7月15日(土)～9月24日(日) 9時30分～17時(土曜日は18時まで)

入館料 大人700円
小中高生200円

※開催期間中の休館日 9月5日(火)、12日(火)、19日(火)

■三瓶自然館サヒメル
大田市三瓶町多根112118